



1941年の秋、SSは2万2000人余のユダヤ人を、ウッチ、ワルシャワ、ルブリンのゲットーのほか、旧ソ連都市のリガとミンスクへ移送することを決めた(地図92)。第一次移送列車は、1941年10月16日に出発した。ゲットーに到着したユダヤ人を待っていたのは、飢餓であった。リガとミンスク組は、到着とともに付近の森へ運ばれ、そこで射殺された。

一方スロヴァキアでは、当地のユダヤ人数千人が1941年10月10日から、セド、ヴィフニ、ノヴァキの労働キャンプへ送られ、旧チェコスロヴァキア領に残留するユダヤ人は住家を出るよう命じられ、14都市のゲットー指定地区へ送られた(地図93)。このユダヤ人達は、1941年9月1日時点から黄色のバッジ着用を義務づけられ、すべてのビジネス活動

の中止を命じられていた。スロヴァキアだけでも、1万を超えるユダヤ人店舗と企業が閉鎖の憂き目にあった。

1941年11月24日、新ゲットー中最大級のものが、チェコの小さな要塞都市テレジエンシュタット(チェコ名、テレジン)に完成した。終戦まで7万3614人のユダヤ人が、ボヘミア、モラヴィアからここへ移送された。ドイツ第三帝国の各地からも数千人が送られている。

11月、東方への移送が続くなか、移動抹殺隊はその仕事を精力的にこなしていた(地図94)。ちょうどその頃ブッヘンヴァルトでは、1200人の収容者が実験用に選ばれ、ベルンベルクの安楽死センターへ送られ、ガスで処刑された。

